

## ■日本広報協会

全国の自治体から日本広報協会に送られてくる広報誌のうち、約 50 カ所の議会だよりを閲覧させていただく。

特集記事の内容、文字の大きさ、行間、写真の活用の仕方、見出しのつけ方など、市民が手に取りたくなる紙面づくりの点で大変参考になった。また、閲覧した議会だよりの中で参考となるものがあれば持ち帰ってよいとのことだったため、広島県東広島市議会、福岡県筑後市議会ほか9市議会の議会だよりをいただいていた。



日本広報協会にて議会だよりを閲覧

## ■東京都羽村市議会

議会だより編集委員会の石居尚郎いしいひさお委員長より、議会だよりリニューアルの経緯、リニューアルのポイント、費用面などについて説明をいただいた。

羽村市では、議会改革の取り組みの中で「情報を発信する開かれた議会のために」との視点から「議会だよりの充実」を図ってきた。かつての議会だよりは、表紙の写真は市内の風景写真、一般質問のページでは議員の名前は入るが、顔写真は掲載されていないものだった。まずは市民の皆さんに議会だよりを手にとってもらうという観点から、市民の顔が出る紙面を意識されたとのことである。



羽村市議会にてリニューアルの経緯等伺う

### ・市民インタビューについて

10年ほど前から羽村市議会の中では話題にでていたが、実施までには至っていなかった。リニューアルを機に2～3ページの見開きは市民インタビューのページを、表紙にはインタビューした市民の写真を掲載することとした。

市民インタビューは、3常任委員会が持ち回りで行い、議員が取材をして原稿を書いている。事務局は、団体との日程・取材場所の調整を行うのみ。インタビューはすべて委員会任せで、質問事項を前もって取材先の団体等に知らせて行っている。苦勞している点は、インタビューする団体等に偏りがないように決めることだそうである。

### ・一般質問のページについて

議員の顔写真と会派名も掲載することとし、文字数も700字→500字に思い

切って削減した。空間を作ることで読みやすさが増したようである。

- ・費用面について

デザイン、紙面構成等の編集は、編集専用のソフトを活用して事務局が行っている。印刷業者は、ほぼ印刷をするのみであるが、手の込んだデザインなどは作成をお願いしているとのこと。2色刷りだった議会だよりをリニューアル後、全ページ4色刷りに変えたが、デザイン料がかかかっていないためか、金額に大きな変更はなかった。

- ・議会だよりの紙質について

再生紙は、ずいぶん前から採用しているとのこと。

- ・議会広報に関する意識の統一について

選挙で代替わりする中で「もっといい広報を作ろう」という意識をもつ議員が増えたため、広報委員と他の議員との間で広報に関する意識の統一で苦労したことはなかった。しかし、来春改選のため、これまで改善してきたことを改選後にしっかり引き継いでいかなければならないと考えているとのこと。

- ・印刷に出すまでの編集委員の関わり

原稿校正後、編集委員長、議長確認後、印刷している。



「テレビはむら」の運営等について職員から説明を受ける

研修終了後、「テレビはむら」のスタジオと議場を見学させていただいた。

「テレビはむら」は羽村市の職員が企画から撮影、編集、収録まで行っている市の広報番組で、羽村市からのお知らせや市内の話題など、ケーブルテレビを使って放映しているほか、ホームページでも動画配信をしている。市役所内にスタジオがあり、収録・編集等行われていた。



市役所内にある収録スタジオ



羽村市議会の議場を見学